

AppManager 4.3J エージェント補足資料

第 1.2 版 Feb 7, 2003

Microsoft Windows NT/2000

サポートバージョン

Windows NT Server 4.0 SP4 以上
Windows NT Server 4.0 Enterprise Edition SP4 以上
Windows NT Server 4.0 Terminal Server Edition SP4 以上
Windows 2000 Professional (SP1, 2)
Windows 2000 Server（SP1, 2）
Windows 2000 Advanced Server（SP1, 2）
Windows 2000 Datacenter Server（SP1, 2）
Windows XP Professional

補足事項

Intel プロセッサのみサポートしています。
MDAC 2.1 SP2 以上が必要です。
Microsoft Access ODBC ドライバが必要です。
Advanced Server および Datacenter Server の場合には、別途ライセンスが必要です。

制限事項

Windows NT Workstation はサポートしておりません。

CHECK POINT FireWall-1 (Windows)

サポートバージョン

4.0, 4.1 (SP1, 2, 3, 4, 5)

補足事項

Windows プラットフォームのみサポートしております。
Next Generation（5.0）には対応しておりません。

Citrix MetaFrame (Windows)

サポートバージョン

1.0, 1.8, 1.8 FR1

補足事項

Microsoft Terminal Server に対するサポートの一部として提供されます。
MetaFrame XPe には対応していませんが、Windows Terminal Service エージェントにより WTS 部分を監視することが可能です。

Compaq Insight Manager (Windows)

サポートバージョン

4.5, 4.6, 4.7, 4.8, 4.9, 5.0, 5.1, 5.2, 5.3, 5.4, 5.5, 6.0

Computer Associates ARCserve (Windows)

サポートバージョン

ARCserveIT 6.5, 6.6
ARCserve 2000

Dell OpenManage (Windows)

サポートバージョン

3.5, 3.51, 3.52, 4.0, 4.21, 4.22, 4.30

HP TopTools/SNMP Agent (Windows)

サポートバージョン

NetServer L シリーズ上の 4.11, 4.5, 4.52, 5.02, 5.03, 5.50

IBM Director (Windows)

サポートバージョン

2.2, 3.1*

制限事項

IBM Director 3.1 のアレイマネージャはサポートしておりません。

IBM MQSeries (Windows)

サポートバージョン

5.1

IBM Netfinity Manager (Windows)

サポートバージョン

5.2, 5.20.5, 5.20.7

Lotus Domino Server (Windows)

サポートバージョン

4.6, 5.0.x

補足事項

ドミノクラスタ対応。
パーティションサーバ対応。

制限事項

Microsoft Cluster Server 上の Domino サーバはサポートしておりません。

Microsoft Active Directory Service

サポートバージョン

Windows 2000

Microsoft Application Center

サポートバージョン

Application Center 2000

Microsoft BizTalk Server

サポートバージョン

BizTalk Server 2000

BizTalk Server 2002

Microsoft Cluster Service

サポートバージョン

Microsoft Cluster Server 1.0
Windows 2000 Cluster Service

Microsoft Exchange Server

サポートバージョン

5.0, 5.5 SP3 以上

補足事項

Microsoft Cluster Server 上の Exchange Server 5.5 対応 (Active/Passive)

制限事項

一部の Knowledge Script は、クラスタ構成に対応しておりません。

Microsoft Exchange 2000 Server

サポートバージョン

2000

補足事項

Microsoft Cluster Service 上の Exchange Server 2000 対応 (Active/Active, Active/Passive)

制限事項

一部の Knowledge Script は、クラスタ構成に対応しておりません。

Microsoft Internet Information Server

サポートバージョン

4.0, 5.0

補足事項

クラスタ構成には対応しておりません。（ただし、Exchange 2000 Server のプロトコルスタックとしての IIS がクラスタ構成にインストールされている場合については、対応予定。）

Microsoft Internet Security and Acceleration Server

サポートバージョン

ISA Server 2000

補足事項

一部の Knowledge Script は、ISA Server 2000 自身のメモリリークに起因する注意事項があります。詳細は、下記の記事を参照してください。

[記事番号] NETIQJP5
[タイトル]ISA Server 2000 エージェントの運用に関する注意事項

Microsoft Message Queue Server

サポートバージョン

Microsoft Message Queue Server 1.0
Windows 2000 上の Queuing Service

Microsoft Proxy Server

サポートバージョン

サポートしておりません。

Microsoft Site Server

サポートバージョン

サポートしておりません。

Microsoft SQL Server

サポートバージョン

6.5, 7.0, 2000

補足事項

マルチインスタンス対応 (SQL 2000)
Microsoft Cluster Server 上の SQL 7.0 対応 (Active/Passive)
Microsoft Cluster Service 上の SQL 2000 対応 (Active/Active, Active/Passive)

制限事項

バージョンやクラスタ構成により一部使用できる Knowledge Script が異なります。

Microsoft Systems Management Server

サポートバージョン

サポートしておりません。

Microsoft Transaction Service

サポートバージョン

Microsoft Transaction Server 2.0 (NT4)
Microsoft Transaction Service 1.0 (W2K)

Microsoft Windows Load Balancing Service

サポートバージョン

2.2, 3.0

Microsoft Windows Terminal Service

サポートバージョン

Windows NT4.0 Terminal Server Edition SP4 以上
Windows 2000 Terminal Service

Microsoft WMI Service

サポートバージョン

Windows NT4.0 SP4 以上
Windows 2000

Network Associates/McAfee NetShield (Windows)

サポートバージョン

4.0, 4.5

Oracle DBMS (Windows)

サポートバージョン

8.0, 8.0.5, 8.1.5, 8.1.6, 8.1.7

補足事項

OFS 対応。

制限事項

マルチインスタンスはサポートしておりません。
Oracle Pallarel Server (OPS)はサポートしておりません。
Personal Edition はサポートしておりません。
9i は次期バージョンでサポート予定です。

Veritas Backup Exec (Windows)

サポートバージョン

8.0, 8.5, 8.6

Unix エージェント共通事項

制限事項

下記の機能についてはサポートされていません。

- リモートインストール
- AppManager 管理サーバーと UNIX エージェント間の暗号化された通信
- 定期保守機能：
  定期的にスケジュールされた AppManager ジョブを管理クライアントで指定したサーバー保守の期間だけ一時的に実行されないようにする機能は、UNIX KS 及び UNIX エージェントではサポートされません。
- スケジュールされたアップロード：
  Client Communication Manager のオートノミーモードにおけるスケジュールされたアップロードの機能は UNIX エージェントではサポートされません。スケジュールされたアップロードの機能の詳細については、「AppManager 管理者ガイド」の第 7 章「管理クライアントの操作」を参照してください。
- ジョブプロパティの高度な設定：
  ジョブプロパティの高度な設定（例えばイベント集積やデータ管理オプション等）は、UNIX エージェント上で実行されているジョブではサポートされません。
- 複数の管理サーバー：
  複数の管理サーバーは UNIX エージェントではサポートされていません。
- ジョブステータスの保存：
  管理サーバーとの通信が切断された場合、ジョブステータス情報は固定ファイルに保存されません。UNIX エージェントが停止され、再起動されると、次に管理サーバーと通信するまで、構成ファイルである nqmcfg.xml を使用して、ジョブステータスを決定します。

既知の問題

- ファイル記述子の数の不足:
  - 一つの UNIX エージェント上で実行するジョブの数が 50 より多い場合、ジョブが"Bad file number"のエラーを表示する場合があります。
  - UNIX エージェントが、エラー "Fail to allocate memory to construct a Java string ... OutOfMemoryErrorJava.lang exception" を発生させる可能性があります。
  - スケジュールされたジョブ間隔が非常に短い場合（例えば 5 秒間隔等）、同様のエラーが発生する可能性があります。

  回避策：
  デフォルトのスケジュールを使用するか、または長いジョブ間隔を使用し、各エージェント上で実行するジョブの数を 50 より少なくしてください。

- UNIX エージェントに対する root 権限：
  root 権限で UNIX エージェントを実行しない場合、下記の Knowledge Scripts は実行できません。
  - Syslog
  - NetInterfacesCollision
  - NetInterfacesConnectivity
  - NetInterfacesDown
  - NetInterfacesErrors

  UNIX エージェントは"UX Networking"パフォーマンスオブジェクトに関連付けられたカウンタを取得するために root 権限で実行されていなくてはなりません。

- Knowledge Script グループ：
  Knowledge Script グループを使用して UNIX エージェント上のジョブを開始する場合、30 よりも多いジョブを開始しないでください。
- 毎月のスケジュール：
  ジョブを「毎月」でスケジュールした場合、正しく動作しない場合があります。
- デベロッパーコンソール:
  exit()の呼び出しを含む Perl スクリプトに対して Knowledge Script 変換ユーティリティを使用すると構文エラーを生成する恐れのある有効でない Perl スクリプトである警告が表示されます。変換ユーティリティで生成された文字列をそのまま使用すると、この構文エラーにより Knowledge Script の実行ができません。以下に例を示します。

  デベロッパーコンソールを起動してスクリプトのプロパティを unix + Perl に変更し、下記の Perl スクリプトを貼り付けます。

  use NetIQ::Nqext; my ($a) = @ARGV or exit (500); print "$a\n";

  Knowledge Script への変換を実行します。 exit(500)を含む３つの変換候補文字列が表示されます。２つの変換候補は以下の文字列を含んでいます。

  my ($a) = @ARGV or if ((500)) {

  "...or if ..."をひとつの文に書くことはできないので、どの候補も構文エラーを含んでいます。

  回避策:
  手動にて構文エラーを修正してください。
-

Sun Solaris

サポートバージョン

2.6, 2.7(Solaris 7), 2.8(Solaris 8)

- 32-bit 版: 2.6, 2.7, 2.8
- 64-bit 版: 2.7, 2.8

補足事項

OS のバージョンにあわせて、次のレベル以上のパッチが必要です。
2.6 :
105568-22, 105210-33, 105181-23, 105591-09, 106125-10
2.7 :
106980-13, 106541-15, 107544-03, 106327-08
2.8 :
None

詳細については、ウェブサイト: Solaris ™ Patches for Java 2 SDK, Standard Edition, v1.3.1 上に掲載されているパッチをインストールするための指示事項に従ってください。

ハードウェア要件

- Sparc プロセッサ
- 10MB の/tmp ディスク領域

- 120MB の未使用ディスク領域
- 128MB のメモリ。推奨 256MB
- ネットワークインターフェイスカード

ソフトウェア要件

- AppManager 管理サーバーと通信するための TCP ソケットを用いたネットワーク機能
- ソフトウェアをインストールするための root 権限

制限事項

現時点では、Solaris 9 に対応しておりません。

IBM AIX

サポートバージョン

AIX version 4.3.x, 5L v5.1

補足事項

システムライブラリ

SPMI ライブラリが必須です。SPMI ライブラリを確認するには、command '/usr/bin/lslpp -L | grep perfagent.tools' を使用します。

ハードウェア要件

- 10MB の/tmp ディスク領域
- 175MB の未使用ディスク領域
- 128MB のメモリ。推奨 256MB
- ネットワークインターフェイスカード

ソフトウェア要件

- AppManager 管理サーバーと通信するための TCP ソケットを用いたネットワーク機能
- ソフトウェアをインストールするための root 権限

制限事項

- General Counter KS では、Process Elapse Time の監視はサポートされていません。
- GeneralCounter KS を IBM AIX 上で実行するとカウンタ取得のコードでメモリリークが発生します。この問題は、GeneralCounter KS を IBM AIX で実行して UNIX ネットワークのカウンタにアクセスする際に発生します。これらのカウンタ取得におけるメモリリークを防ぐには、ネットワーク系の情報を取得する目的で GeneralCounter KS を使用せず、UNIX タブで提供されるネットワーク系の KS を使用してください。
- 複数の Logical Disk KS が実行された場合、各 KS が同時に実行されるタイミングで、データポイントが取得できない場合があります。データの収集に、AIX の trace 機能を使用して、1 秒間隔でサンプリングしています。しかし、AIX の trace 機能は現時点では、一度に一つの出力ストリームしかサポートしておらず、このために複数の Logical Disk KS が同時に trace からサンプリングしようとする瞬間がまれにではありますが発生することがあり、その場合データポイントが取得できないことになります。また、trace 機能が他の実行中システムプロセスによって使用されている場合、AIX 上では、Logical Disk KS はデータを収集できません。

- AIX4.3.3 で、OS で適切な修正が適用されていない場合（bos.sysmgt.trace.4.3.3.14 以上、または AIX4.3.3.0.05 以上でない場合）、Logical Disk Busy, Logical Disk IO または Logical Disk Utilization KS を実行すると、filemon コマンドの問題により OS が停止する場合があります。この問題は APAR 番号 IY09940 で解消されます。PTF 番号は U471065 です。

HP HP-UX

サポートバージョン

HP-UX version 11.0, 11.i

補足事項

OS のバージョンにあわせて、次のレベル以上のパッチが必要です。

11.0x

パッチバンドル

QPK1100

パッチ

PHCO_25342
PHCO_25707
PHCO_26000
PHKL_25906
PHKL_25999
PHNE_23003
PHSS_24303

11.1x (11i)

パッチバンドル

GOLDBASE11i
GOLDAPPS11i

パッチ

PHCO_25452
PHKL_24569
PHKL_25389
PHKL_25729
PHKL_25840

カーネルパラメータ

maxdsiz (32-bit machine) - 200M
maxdsiz (64-bit machine) - 512M
maxdsiz_64bit (64-bit machine) - 512M
maxssiz (32-bit machine) - 256M
maxssiz (64-bit machine) - 256M
maxssiz_64bit (64-bit machine) - 256M
max_thread_proc - 1024
maxfiles - 1024
nfile - 4000

カーネルパラメータの設定：

カーネルパラメータの設定には、SAM（システム管理マネージャ）の使用を推奨します。SAM（シ

ステム管理マネージャ）はコンソールまたは X-Window モードのどちらでも実行可能な対話型アプリケーションです。タブキーとカーソルキーでカーソルを移動し、スペースキーでハイライト表示、Enter キーで選択または入力の確認をします。X-Window 版ではマウスを使用します。 SAM を使用したパラメータを設定する手順を以下に示します。

1. SAM を起動します。入力を促されたら TERM を設定してリターンキーを入力します。
2. "Kernel Configuration"を選択します。
3. "Configurable Parameters"を選択します。
4. リスト内の変更したいパラメータに移動します。
5. スペースキーでそのパラメータをハイライト表示します。
6. タブキーとカーソル移動キーを使用して"Actions"メニューを選択します。
7. "Modify Configurable Parameter"を選択します。
8. タブキーを使用して"Formula/Value"へ移動し、新しい値を入力します。
9. "calculated value"に入力された新しい値がその項目に表示されるので、上記の一覧の値と比較してください。
10. タブキーで"OK"に移動してリターンキーを入力して確定します。
11. 上記 4-10 のステップをすべてのパラメータに対して繰返します。
12. タブキーとカーソル移動キーを使用して"Actions"メニューを再度選択します。
13. "Process new Kernel"を選択します。
14. リターンキーを入力します。
15. "Move kernel into place and shutdown/reboot"を選択してリターンキーを入力します。
16. 再度リターンキーを入力して確定します。
17. リブートして終了するのを待ちます。ログイン後、すべてのパラメータが変更されていることを確認後、UNIX エージェントのインストール作業を開始してください。

カーネルパラメータの確認：

kmtune コマンドを使用します。

例： /usr/sbin/kmtune -q maxdsiz_64bit

sysdef を使用することもできます。

例： sysdef | grep maxdsiz_64bit

ハードウェア要件

- 10MB の/tmp ディスク領域
- 155MB の未使用ディスク領域
- 128MB のメモリ。推奨 256MB
- ネットワークインターフェイスカード

ソフトウェア要件

- AppManager 管理サーバーと通信するための TCP ソケットを用いたネットワーク機能
- ソフトウェアをインストールするための root 権限

Redhat Linux

サポートバージョン

Red Hat Linux, version 7.0, 7.1, 7.2, 7.3

補足事項

カーネル及びライブラリ

2.2.16 またはそれ以降の Linux カーネルが必要です。
また、以下の RPM が必要です。

- libstdc++-2.96-54 以上
- compat-libstdc++-6.2-2.9.0.9 以上
- libc-2-2-0.so 以上
- sysstat-3.3.4 以上 (オプション)

これらの RPM は Linux CD-ROM から取得するか、Red Hat のウェブサイト: http://www.redhat.com からダウンロードしてください。

ハードウェア要件

- Intel プロセッサ
- 10MB の/tmp ディスク領域
- 105MB の未使用ディスク領域
- 128MB のメモリ。推奨 256MB
- ネットワークインターフェイスカード

ソフトウェア要件

- AppManager 管理サーバーと通信するための TCP ソケットを用いたネットワーク機能
- ソフトウェアをインストールするための root 権限

制限事項

- オプションの RPM、sysstat 3.3.4 以上がインストールされていない場合、以下の Knowledge Scripts は実行できません。
  - LogicalDiskBusy
  - LogicalDiskIO
  - LogicalDiskUtilization

Response Time モジュール共通事項

共通クライアント要件

AppManager バージョン 4.3J のリポジトリ、管理サーバー、オペレーターコンソール

Windows NT 4.0、サービスパック 5 またはそれ以上、Windows 2000 Professional、または Windows XP Professional。Windows XP Home はサポートされません。

Microsoft Internet Explorer 5.0 またはそれ以降。

Response Time for Active Directory

追加クライアント要件

Windows NT を実行している場合は、Active Directory サービスがインストールされていなければなりません（www.microsoft.com/ntworkstation/downloads/other/adclient.asp を参照）。

Response Time for Microsoft Exchange

追加クライアント要件

Microsoft Outlook 2000 またはそれ以降。

Response Time for Lotus Domino

追加クライアント要件

Lotus Notes R5 またはそれ以降。

補足事項

Lotus は XP での Lotus Notes を 5.0.10 まで正式にサポートしていませんが、NetIQ では XP での Lotus Notes 5.0.8 はテスト済みです。

Notes クライアントがインストールされていない環境では、Domino Response Time モジュールは動作しません。Domino サーバーがインストールされているコンピュータであっても Notes クライアントがインストールされていることが必須ですので、ご注意ください。ただし、本モジュールの性質上、Notes クライアントがインストールされている Domino サーバーとは別のコンピュータに本モジュールをインストールしてご使用になることを推奨します。

Response Time の測定の対象としては、Unix 上の Domino サーバーもサポートしています。

Response Time for Microsoft SQL Server

追加クライアント要件

Windows NT を実行している場合、MDAC 2.1 またはそれ以降がインストールされていなければなりません。www.microsoft.com/data/download.htm を参照してください。